

情報公開文書

研究の名称	十二指腸有茎性病変に対する内視鏡治療の有効性についての検討
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学附属病院第三内科教授・安田一朗
研究の概要	<p>【研究対象者】 2006年12月1日から2022年5月31日の期間に当院で行われた有茎性十二指腸病変に対する内視鏡的切除（ポリペクトミーもしくは内視鏡的粘膜切除）症例。</p> <p>【研究の目的・意義】 内視鏡診療の発展と普及に伴い、十二指腸腺腫や十二指腸粘膜下腫瘍などの発見数が増加傾向にあります。十二指腸の無茎性病変（茎をもたない平坦な病変）に対する内視鏡治療成績は多く報告されている一方で、有茎性十二指腸病変に対する内視鏡治療の報告は限られており、標準的治療法は確立していません。唯一の論文報告では内視鏡的切除が行われた28病変の治療成績として一括切除率93%、消化管穿孔率0%、遅発性出血4%と高い有効性と安全性が報告されています(1)。今回は当院における十二指腸有茎性病変に対する内視鏡治療成績を検討し、その有用性や問題点を明らかにすることによって今後の内視鏡診療の質向上に役立てていきたいと考えています。</p> <p>1. (1) Masunaga, T.; Kato, M.; Sasaki, M.; Iwata, K.; Miyazaki, K.; Kubosawa, Y.; Mizutani, M.; Kiguchi, Y.; Takatori, Y.; Matsuura, N.; et al. Feasibility of endoscopic resection for large pedunculated duodenal lesions (with video). Surg Endosc 2022, 36 (5), 3637-3644. DOI: 10.1007/s00464-022-09094-0</p> <p>【研究の方法】 診療録の情報から後方視的に治療成績について検討します。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ~ 2024年3月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 結果の如何に関わらず、研究成果は公表し、学会発表および英文誌への論文投稿を行います。この際に個人のプライバシー保護には十分な注意を払って、個人の特定につながる情報は公表しません。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	電子診療録より以下をの情報を使用します：年齢、性別、既往歴、内服歴、病変部位、病変サイズ、肉眼型、周在性、治療日、処置時間、偶発症の有無・種類、在院日数、使用した内視鏡機種、止血方法、一括切除率、R0切除率。 本研究では他機関への資料提供は行いません。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	研究責任者：富山大学附属病院 第三内科 教授 安田一朗
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び

	知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	研究責任者：富山大学附属病院 第三内科 教授 安田一朗
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 070-434-7301 FAX 076-434-5027 E-mail teramoto@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 第三内科 寺本 彰</p>